

科目名	弾性波工学		英文表記	Elastic-wave Engineering		2014/3/14		
科目コード	6214							
教員名: 兼城 千波 技術職員名:						修正		
対象学科/専攻コース			学年	必・選	履修・学修	単位数	授業形態	授業期間
創造システム工学専攻・電子通信システム工学コース			専2	選	学修	2単位	講義	前期
科目目標	①弾性波のメカニズム・基礎を理解する。 ②弾性波デバイス構造、動作原理、電気特性について、物性的観点から理解する。							
総合評価	定期試験(期末)(40%)(A-4)+レポート(中間)(40%)・輪講資料(20%)(A-4) 学年末評価は前期評価と後期評価の平均で行い、60%以上を合格とする。							
科目目標達成度とJABEE目標との対応	科目達成度目標(対応するJABEE教育目標)			達成度目標の評価方法			目標割合	
	①	弾性波のメカニズム・基礎を理解する。(A-4)		⇒	正しく説明できるか定期試験および課題で評価する。		50%	
	②	弾性波デバイス構造、動作原理、電気特性について、物性的観点から理解する。(A-4)		⇒	正しく説明できるか定期試験および課題で評価する。		50%	
	③			⇒				
本科・専攻科教育目標	1	2	3	4	JABEEプログラム名称	情報通信システム工学		
	○		◎		JABEEプログラム教育目標	◎A-4		
評価方法と評価項目および関連目標に対する評価割合								
	目標との関連	定期試験	小テスト	レポート	その他(演習課題・発表・実技・成果物等)	総合評価	セルフチェック	
評価項目		40	0	40	20	100		
基礎的理解	①②	35		35	10	80		
応用力(実践・専門・融合)	①②	5		5	10	20		
社会性(プレゼン・コミュニケーション・PBL)						0		
主体的・継続的学修意欲						0		
授業概要、方針、履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> 弾性波の原理、構造、デバイスについて学ぶ。 授業の一部を輪講形式で行い、作成資料を評価対象とする。 電磁気学・半導体物性工学を履修していること。 							
教科書・教材	弾性表面波工学、配布資料、PPT							

授 業 計 画					
週	授 業 項 目	時間	授 業 内 容	自学自習 (予習・復習)内容	セルフ チェッ ク
1	弾性波工学概論	2	歴史的事項、応用と進展		
2	弾性波の基礎	2	ひずみ、応力、弾性定数、弾性体の運動方程式、材料、機械結合係数	先週の講義内容・問題復習	
3	弾性表面波の伝搬	2	結晶性による伝搬の違い、非線形伝搬	先週の講義内容・問題復習	
4	弾性波の励振(1)	2	直接励振、間接励振	先週の講義内容・問題復習	
5	弾性波の励振(2)	2	圧電膜の励振、磁性膜の励振、そのほかの励振	先週の講義内容・問題復習	
6	弾性表面波導波回路(1)	2	導波回路の特徴と種類、基本特性	先週の講義内容・問題復習	
7	弾性表面波導波回路(2)	2	周期撚動回路	先週の講義内容・問題復習	
8	前期中間試験(行事予定で適変更可)	2		先週の講義内容・問題復習	
9	測定技術	2	伝搬パターン、電気音響変換	先週の講義内容・問題復習	
10	弾性表面波と光波の相互作用	2	光導波路、ブラッグ条件	先週の講義内容・問題復習	
11	弾性表面波と半導体キャリアの相互作用	2	1次・2次相互作用	先週の講義内容・問題復習	
12	フィルタ・遅延線	2	フィルタの構成、分布型遅延線	先週の講義内容・問題復習	
13	共振器および発振器	2	共振器の種類と動作原理、発振器の種類と動作原理	先週の講義内容・問題復習	
14	信号処理への応用	2	スプレッドスペクトル方式、チャープ信号	先週の講義内容・問題復習	
15	まとめ	2	弾性波のまとめ(輪講)	先週の講義内容・問題復習	
期末	期末試験	[2]			
16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
期末	期末試験	[2]			
学習時間合計		30	実時間	22.5	
自学自習(予習・復習)内容(学修単位における自学自習時間の保証)				標準的所用時間(試行)	
①	レポート(その週の講義内容に沿った内容についてレポートを課す。)			各5時間×2回	
②	毎週の講義の復習			各4時間×13回	
③				計62時間	
備考欄					
<ul style="list-style-type: none"> この科目はJABEE対応科目である。その他必要事項は各コースで決める。 関連科目:電子回路I・II(3年)、集積回路I(4年)、集積回路II(5年)、◎半導体物性工学(専攻科1年)、応用物理(4年) 					

学習時間は、実時間ではなく単位時間で記入する。(45分=1、90分=2)

行動特性と評価方法

	レベル5	レベル4	レベル3	レベル2	レベル1	評価方法
①	弾性体の運動方程式を使って、材料の応力を算出することができる。		ひずみ、応力、弾性定数、材料、機械結合係数などの専門用語を説明できる。		ひずみ、応力、弾性定数、材料、機械結合係数などの専門用語が理解でき	試験
①	弾性波の励振原理に基づいて、電極形状やデバイス構造を設計できる。		弾性波(弾性表面波)の励振(中心周波数、周波数特性、BW、減衰・挿入損)を定量的に説明できる。		弾性波(弾性表面波)の励振を定性的に説明できる。	試験
②	弾性波応用デバイスの学習したすべてのデバイスについてデバイス構造、電気特性を説明することができる。		弾性波応用デバイスの一例をデバイス構造、電気特性とともに説明することができる		弾性波を使った応用デバイスにどんなものがあるかを説明できる	レポート 試験
②	デバイス特性を見て、どんな機能があるかを説明できる		測定する特性について、何がキーパラメータとなるか？わかっている。		一般的な弾性波デバイスにはどんな測定方法が用いられているか、理解でき ↑教科書などを見ながらでも説明ができて、60点	レポート 試験